

料金別納郵便



岩瀬健一 展 高麗茶碗に挑む

令和5年11月23日(木・祝)~28日(火) 会期中無休

開廊時間：午前11時~午後7時(最終日28日は午後5時まで)

作家在廊日：会期中、全日在廊予定

陶歴 昭和21年 東京に生まれる
昭和41年 松井康成先生に師事
昭和43年 辻 清明先生、辻 協先生に師事
昭和47年 八王子市に独立築窯
昭和60年 第8回 日本陶芸展 入選、以降、入選多数
平成10年 第45回 日本伝統工芸展 入選、以降、入選多数
平成21年 第3回 菊池ビエンナーレ展 入選
令和4年 第14回 現代茶陶展 織部奨励賞 受賞 現在、日本工芸会正会員

岩瀬さんは、東京の八王子郊外の緑豊かな地にご自宅と工房を構える陶人です。築100年以上の古民家にこ一家で仲睦まじくお住まいで、今年、晴れて喜寿を迎えられました。その昔は、柿絵や黒絵など独自の装掛けの作品を作られてきましたが、昨今はこれらの作品を封印し、粉引、伊羅保、刷毛目、そして最新作の井戸など、高麗茶碗を作られる様になりました。

何故、今、高麗茶碗なのか、岩瀬さんに伺ってみると、「陶芸を志したきっかけのひとつが井戸茶碗。以来、半世紀以上経過した今の私の茶碗観を具現化したく、さらに和物茶碗としての粉引や井戸に挑戦するという遥かな夢に向かって精進してまいります。」との事。高麗茶碗は古陶の名碗が沢山あり、どうしてもこれらと比較されてしまいますから、作りづらいのではと思うのですが、あえて、令和の高麗茶碗に挑むその作陶姿勢に、私は共感を抱きました。

そして、本展のご案内状用にお送りいただいた裏面や中面の茶碗は、古陶の高麗茶碗の影が見え隠れするものの、しっかり令和の岩瀬茶碗になっていて嬉しくなりました。井戸は風格ある佇まいで、ロクロ目と高台周りの梅花皮(かいらぎ)の景色も美しい一碗です。彼の十八番である粉引は、そのトロツとした白釉が優しく、おっとりとした雰囲気も掌に馴染みます。

弊廊でほぼ二年振りとなる本展では、最新作の高麗茶碗など、100点を発表致します。温厚なお人柄で、愛陶家からの信望も厚い岩瀬さんは会期中、毎日在廊されます。小雪の候で、寒さに向かう頃ですが、是非お手に取り、ご高評を頂ければ幸いです。

店主 安田尚史

柿絵ギャラリー
KAKIDEN GALLERY

公式Instagram



160-0022 東京都新宿区新宿3-37-11 安与ビルB2階
03-3352-5118 gallery@kakiden.com



